

## 生体データとドライブレコーダデータを統合したコンサルティングサービスの提供開始

東京海上日動火災保険株式会社(取締役社長 北沢 利文、以下「当社」と東京海上日動リスクコンサルティング株式会社(代表取締役社長 嶋倉 泰造、以下「TRC」)は、2017 年 10 月 1 日より生体(疲労・眠気)データとドライブレコーダデータ(車内・車外映像)を統合したコンサルティングサービスの提供を開始します。

従来から、当社および TRC では「ドライブレコーダを活用した企業様の交通安全教育支援サービス」を提供してまいりましたが、この度、本サービスで取得する情報に生体データや車内映像を加えることで自動車事故・ヒヤリハットの原因を特定することができ、より高度な交通安全教育のご支援・アドバイスができるようになりました。

当社および TRC は本サービスの提供を通じ企業様の更なる自動車事故削減に貢献してまいります。

### 1. 背景・目的

国内の交通死亡事故は、約 4 割が「安全確認不備(安全不確認、漫然運転等)」により発生しており(※出所:警察庁 交通事故統計)、交通事故削減のためには「安全確認不備」の原因を特定し、対策を実施していく必要があります。また、昨今の技術革新により様々な生体データや映像データが容易に取得できるようになり、これらのデータを組み合わせて交通安全の分野で活用することが、自動車事故防止につながる安全管理における重要課題となっております。

そのような中、当社と TRC は、生体データとドライブレコーダデータを組み合わせて分析することで、「安全確認不備」の原因を特定するコンサルティングサービスを開発いたしました。

### 2. サービスの概要

シート据置き型計測機器とドライブレコーダー(車外・車内の 2 カメラ内臓)によって収集されたドライバーの生体データと不安全行動映像を組み合わせ、より効果的な指導につなげられる教育テキストをご提供します。なお、生体データを取得する機器は、ドライバーの装着負担をなくすために座席にセンサーを取り付ける仕様にしており、確実にデータ取得できるようにしました。

これにより、車内映像を活用したドライバーへの具体的な安全運転指導に加え、生体データから明らかになったドライバーの疲労度を軽減するための乗務時間・乗務シフト・走行ルート等の変更等、組織として対策をご検討いただくことも可能になります。



(\*)シート据置き型計測機器

<図表:現行コンサルティングサービスと新コンサルティングサービスとの比較>

	データ計測車載機	危険場面映像 の収集	事故・ヒヤリハットの原因特定	
			ドライバーの 不安全行動	ドライバーの 疲労度上昇
現行サービス	・ドライブレコーダ(前方映像)	○	△	×
新サービス	・ドライブレコーダ(前方・車内映像) ・疲労度計測器	○	○	○

以上